



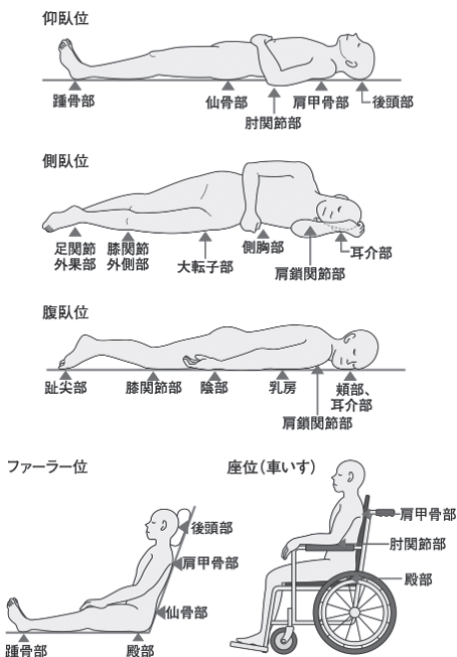
形成外科で診る褥瘡(床ずれ)

●褥瘡(じょくそう)とは?

机におでこをつけて突っ伏して寝てしまうと、しばらくおでこが赤くなってしまいます。そのような体の圧迫を2時間以上も続けてしまうと、その赤みは簡単には消えなくなり褥瘡(じょくそう)とよばれるものになります。更に長い時間圧迫してしまうと、皮膚が傷んで黒くなり、皮膚よりもっと深い部分まで傷んでしまい、傷になって潰瘍(かいよう)ができてしまうこともあります。

つまり、褥瘡とは、体表の持続的な圧迫によって、皮膚やその下層の組織が血流不全になり、損傷または壊死した状態のことをいいます。長期臥床(がしょう)などによって体の同じ部分が圧迫されて赤くなったり黒くなったりした「床ずれ」も褥瘡です。皮膚や皮下組織が布団と突出している骨に長時間挟まれていると血流不全を起こすのです。

仰臥位(ぎょうがい) … 仰向けの状態
側臥位(そくがい) …… 横向きの状態
腹臥位(ふくがい) …… うつ伏せの状態



健康人であれば、ぐっすり寝ていても、寝返りをうって同じ部位ばかり圧迫されるのをふせぎます。しかし、自力で動けないほどの寝たきりの場合や、転倒して動けなくなった場合、また病気などで感覚が一部なく圧迫されていてもわからない場合などには、難治性の褥瘡ができてしまうことがあります。

●褥瘡の治療

感染を起こしたときには、まず壊死した組織を除去し、洗浄等できれいにして感染を抑えます。感染がおさまれば、軟膏等の保存的治療で治ることもありますし、大きい場合は手術で傷をとじる場合もあります。

褥瘡についてお困りの際は
当院形成外科または皮膚科にご相談ください。

お問い合わせ：形成外科外来 または 皮膚科外来 TEL：0721-24-3100 (代表)